

1. 活動報告

1) プレスリリース

松坂賢

松坂賢准教授（医学医療系）らの研究チームの成果が、12月30日にプレスリリースされました。

【マクロファージがつくる不飽和脂肪酸が、炎症を収めるのに重要であることを発見—炎症の慢性化を抑え生活習慣病を防ぐ、新しい治療標的の可能性—】

東京医科歯科大学難治疾患研究所 細胞分子医学分野(テニュアトラック研究室)の大石由美子テニュアトラック准教授の研究グループは、カリフォルニア大学サンディエゴ校の Christopher K. Glass 教授、Nathanael J. Spann 博士、筑波大学の島野仁教授、松坂賢准教授、千葉大学の真鍋一郎教授、ソーク研究所の Alan Saghatelian 教授との共同研究で、マクロファージがつくる抗炎症性不飽和脂肪酸が、炎症応答をうまく収める（収束する）ために重要であることを明らかにしました。

(本文参照：

<http://www.tsukuba.ac.jp/attention-research/p201612300200.html>)

2) 業績 (16年12月)

<原著論文>

Yamashita-Sugahara Y, Matsumoto M, Ohtaka M, Nishimura K,

Nakanishi M, Mitani K, Okazaki Y

“An inhibitor of fibroblast growth factor receptor-1 (FGFR1) promotes late-stage terminal differentiation from NGN3+ pancreatic endocrine progenitors. Scientific Reports,”

Scientific Reports, Vol. 6, 35908, 2016, doi:10.1038/srep35908

IF=5.578

Yasushi Okazaki, Nurun Nahar Borna, Yoshihito Kishita, Kaori

Ishikawa, Kazuto Nakada, Jun-Ichi Hayashi, Yoshimi Tokuzawa,

Masakazu Kohda, Hiromi Nyuzuki, Yzumi Yamashita-Sugahara, Takashi

Nasu, Atsuhito Takeda, kei murayama, and Akira Ohtak

“A novel mutation in TAZ causes mitochondrial respiratory chain disorder without cardiomyopathy”

Journal of Human Genetics IF=2.487

K. Kadowaki, C. Watanabe, H. Kubo, K. Sakamoto, T. Kashiwagi, T.

Katsuragawa, T. Tanaka, T. Yuasa, Y. Komori, M. Tsujimoto, T.

Kashiwagi, H. Minami, T. Yamamoto, and R. A. Klemm

“Bridging the terahertz-gap using high-Tc superconducting emitters with coherent and continuous electromagnetic wave (EMW) radiation”

Proceedings of the 41st International Conference on Infrared, Millimeter, and Terahertz waves (IRMMW-THz), 2016

DOI: 10.1109/IRMMW-THz.2016.7758352 IF=なし

Nakagawa Y, Satoh A, Tezuka H, Han SI, Takei K, Iwasaki H, Yatoh S, Yahagi N, Suzuki H, Iwasaki Y, Sone H, Matsuzaka T, Yamada N, Shimano H.

“CREB3L3 controls fatty acid oxidation and ketogenesis in synergy with PPAR α ”

Sci Rep. 6:39182, 2016. IF=5.228

<学会発表・招待講演>

川口敦史

第39回日本分子生物学会年会

演題：『小胞輸送系を介したインフルエンザウイルス子孫RNP複合体の細胞内動態』（招待講演）

日時：2016年11月30日～12月2日

場所：横浜

Takaki Matsumoto, Goro Ishiki, Hisayoshi Muraki,

KEK theory workshop 2016,

演題：『Information metric for the matrix geometry,』（口頭発表）

日時：2016年12月6日～9日

場所：High Energy Accelerator Research Organization (KEK)

Hisayoshi Muraki, Goro Ishiki, Takaki Matsumoto,

KEK theory workshop 2016,

演題：『On the geometry of Hermitian matrices,』（ポスター発表）

日時：2016年12月6日～9日

場所：High Energy Accelerator Research Organization (KEK)

西村健、相澤志穂、Nugroho Fransiska Liliani、櫻木佑太、

大高真奈美、福田綾、中西真人、久武幸司

第39回日本分子生物学会年会

演題：『Tc11-Akt を介したKlf4による代謝リプログラミングはiPS細胞の多能性を向上させる』（口頭発表）

日時：2016年12月2日

場所：横浜

相澤志穂、Bui PhuongLinh、西村健、久武幸司

第39回日本分子生物学会年会

演題：『iPS細胞誘導におけるX染色体再活性化を定量化する方法の開発』（ポスター発表）

日時：2016年12月2日

場所：横浜

石川香、聖田俊、小笠原絵美、本間耀、石原孝也、三藤崇行、

三原勝芳、林純一、石原直忠、中田和人

第39回日本分子生物学会年会

演題：『ミトコンドリア病の多様な病態発症機構の理解に向けたアプローチ～核-ミトコンドリア間クロストーク～』（ポスター発表）

日時：2016年11月30日

場所：横浜

本間耀、堅田俊、小笠原絵美、石原孝也、三藤崇行、三原勝芳、
林純一、石原直忠、中田和人、**石川香**
第39回日本分子生物学会年会
演題：『ミトコンドリア遺伝子疾患の病態発症におけるミトコン
ドリア分裂の役割』（ポスター発表）
日時：2016年11月30日
場所：横浜

高橋宗一郎、小笠原絵美、三藤崇行、林純一、**石川香**、中田和人
第39回日本分子生物学会年会
演題：『糖尿病を発症する核ゲノム背景と変異型ミトコンドリア
ゲノムの共存は互いの病原性を変化させる』
（ポスター発表）
日時：2016年11月30日
場所：横浜

谷春菜、**石川香**、清水章文、三藤崇行、林純一、中田和人
第39回日本分子生物学会年会
演題：『mtDNAに病原性突然変異を有する新規ミトコンドリア病
モデルマウスの作出』（ポスター発表）
日時：2016年12月2日
場所：横浜

2. スケジュール

<17年1月>

12日（木）
テニューアトラック普及・定着事業推進委員会及び定例
（メール会議）

12日（木） 11:30～
審査・アドバイザー委員会
総合研究棟D 115会議室

19日（木） 12:30～15:00
若手フェスティバル
総合研究棟D 115会議室

19日（木） 15:15～17:10
若手研究者年次報告会
総合研究棟D 115会議室

テニューアトラック普及・定着事業 *News Letter vol 60*
[平成29年1月号]
編集・発行：若手研究者運営調整部会

*当ニュース・レターは、毎月1回第1木曜日に配信いたします。
連絡先：テニューアトラック支援室